

第1章 東部保健医療圏の現状

- ・東部圏域の人口は漸減傾向にあり、将来も減少が見込まれる。
- ・年少人口、生産年齢人口はいずれも減少する一方、老年人口は増加し、更なる少子高齢化が予測される。
- ・核家族世帯、単独世帯が増加するとともに 1 世帯当たりの人員は減少が続いており、家庭における看護力、介護力の低下につながる。
- ・出生数の減少と死亡率の上昇による、少産多死の進行が今後も続くものと見込まれる。
- ・平成 29 年の悪性新生物、心血管疾患、脳血管疾患による死亡が全死亡者数に占める割合は 51.1%であり、県全体と同様の傾向であるが、悪性新生物による死亡率は県全体よりも高くなっている。
- ・特定健診の受診者数、受診率は着実に上昇している。
- ・がん検診受診率及び精密検診受診率は横ばいであるが、県平均を上回っているものが多い。

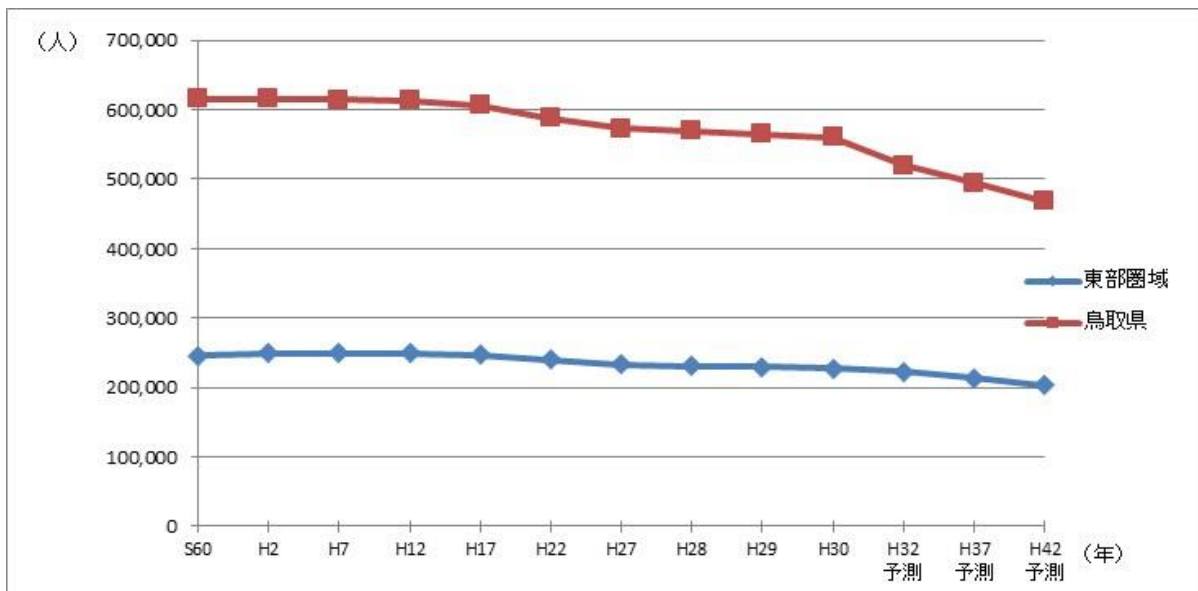
1 人口

(1)人口

東部圏域の人口は、昭和 60 年以降微増し、平成 12 年には 249,385 人に達した。しかし、その後は減少に転じ、平成 30 年は 227,195 人となり、今後も漸減傾向が続くものと見られる。

平成 37 年（2025 年）の推計人口は 213,294 人となっている。

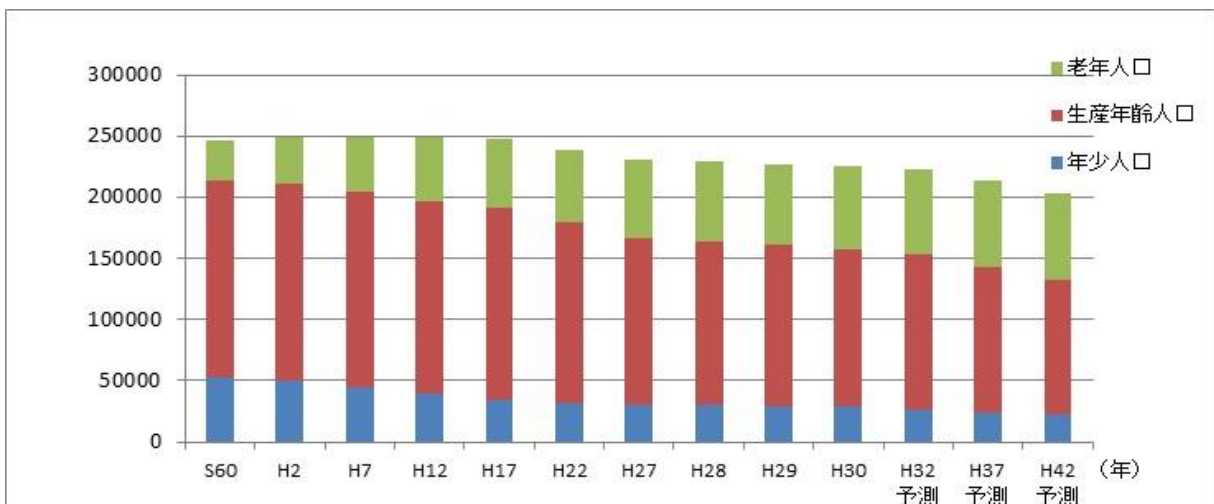
＜東部圏域及び鳥取県の人口推移＞



(2)年齢3区分別人口

平成 27 年国勢調査によると、東部圏域の人口構成は、年少人口（14 歳以下）が 13.0%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）が 59.0%、老年人口（65 歳以上）が 28.0%で、年少人口、生産年齢人口は年々減少し、老年人口の割合が高くなっている。この傾向は今後も続き、平成 37 年（2025 年）には年少人口の割合は 11.3%まで低下するとともに、老年人口の割合は 33.2%と予測される。

＜東部圏域の年齢 3 区分別人口の推移＞



区分	H2 年	H7 年	H12 年	H17 年	H22 年	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	H32 年 予測	H37 年 予測
人口総数	248,814	249,108	249,385	247,469	239,829	232,610	230,928	229,320	227,195	222,807	213,294
年少人口	49,633	44,630	39,168	34,746	31,921	30,032	29,565	29,118	28,596	26,742	24,070
割合 (%)	20.0	17.9	15.7	14.1	13.3	13.0	12.9	12.8	12.6	12.0	11.3
生産年齢人口	160,989	159,250	158,097	156,444	147,967	136,014	133,756	131,498	129,032	126,668	118,401
割合 (%)	64.8	64.0	63.5	63.3	62.1	59.0	58.4	57.8	56.8	56.9	55.5
老年人口	37,874	45,134	51,802	55,952	58,535	64,644	65,687	66,784	67,647	69,397	70,823
割合 (%)	15.2	18.1	20.8	22.6	24.6	28.0	28.7	29.4	29.8	31.1	33.2

出典：平成 27 年までは総務省「国勢調査（各年 10 月 1 日現在）」、平成 28～30 年は統計課「鳥取県推計人口（各年 10 月 1 日現在）」、平成 32 年以降の予測は国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」

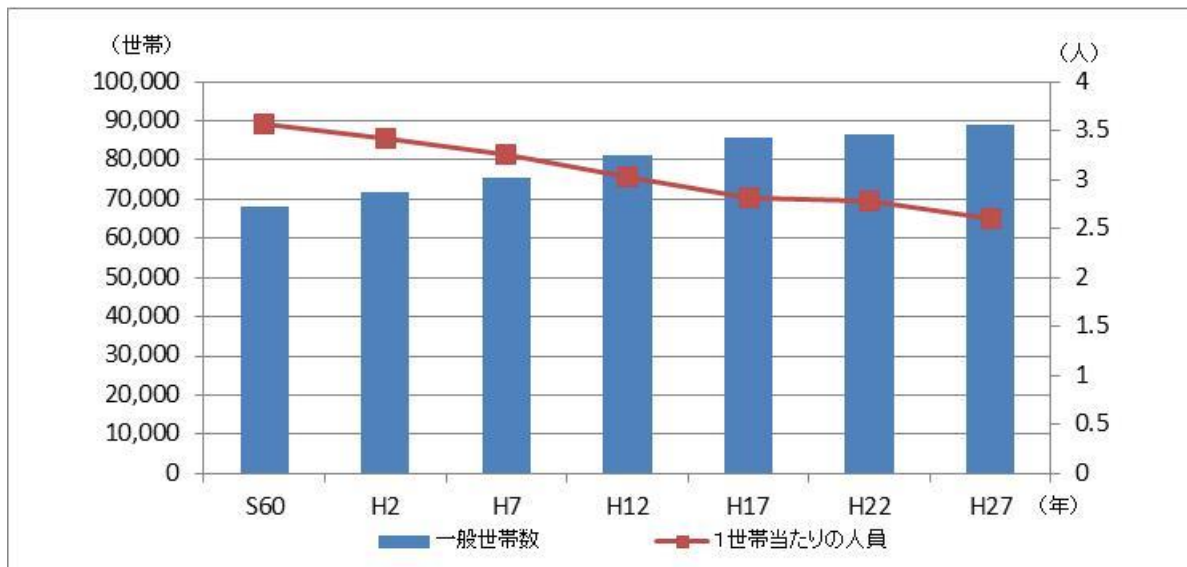
（注 1）平成 22 年までの人口総数には年齢不詳人口を含む。

（注 2）構成比算出の分母は年齢不詳人口を含まない。

(3) 世帯数、世帯人員の推移 ※国勢調査データのため時点修正なし

東部圏域の昭和 60 年の一般世帯数は 68,206 世帯、1 世帯当たりの人員は 3.56 人であった。世帯数は年々増加し、平成 27 年には 88,806 世帯となっているが、核家族世帯、単独世帯の増加によるところが大きく、1 世帯当たりの人員は減少が続いている。また、高齢者の単独世帯が増加しており、家庭における看護・介護力の低下が懸念される。

＜東部圏域の一般世帯数、一般世帯 1 世帯当たり人員の推移＞



＜東部圏域の種類別世帯数＞

区 分	S60 年	H2 年	H7 年	H12 年	H17 年	H22 年	H27 年
一般世帯	68,206	71,709	75,537	80,992	85,565	86,512	88,806
1 世帯当たりの人員 (人)	3.56	3.42	3.25	3.02	2.82	2.78	2.60

（以下は一般世帯数の内数である）

核家族世帯	34,549	35,855	37,879	40,895	43,291	44,487	46,331
単独世帯	10,764	13,249	15,692	19,575	23,222	24,443	27,529
高齢者の単独世帯（再掲）	データなし	3,289	4,219	5,358	6,262	7,041	8,880

出典：総務省「国勢調査」

（注）単独世帯数には年齢不詳者の単独世帯を含む。

2 人口動態

(1) 出 生

平成 12 年以降、減少傾向であり、平成 29 年は 1,624 人で、合計特殊出生率は 1.44 であった。

＜東部圏域の出生数の推移＞



出典：鳥取県人口動態統計

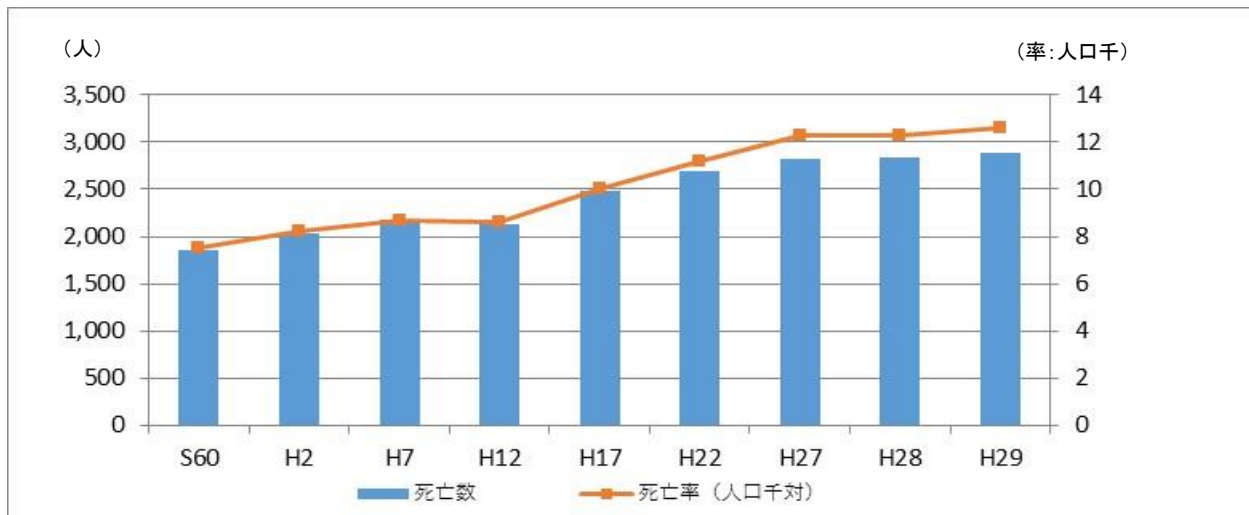
(合計特殊出生率の平成 7 年、12 年は八頭郡データ(当時の郡家保健所管内)を含まない。)

※合計特殊出生率：1 人の女性が生涯に産む子どもの数の平均値を示す指標。この値が 2.08 を超えないとその集団の人口再生産を維持できない(人口が減少していく)とされる。

(2) 死 亡

昭和 60 年以降、死亡数、死亡率(人口千対)はともに上昇傾向にあり、平成 29 年の死亡数は、2,884 人、死亡率は 12.6 であった。

＜東部圏域の死亡数及び死亡率(人口千対)の推移＞



出典：鳥取県人口動態統計

(3)死因の状況

平成 29 年の東部圏域の主要死因は、第 1 位が悪性新生物、第 2 位が心疾患、第 3 位が老衰、第 4 位が脳血管疾患である。ただし、老衰と脳血管疾患の年齢調整死亡率を比較すると、**男性は脳血管疾患の方が高く**、高齢化により、特に女性の老衰の死亡数が多くなった影響であると考えられ、脳血管疾患は依然として主要な死因である。老衰を除く 3 大死因による死亡が **51.1%** を占めており、県全体と同様の傾向である。男性の悪性新生物による**年齢調整死亡率**は県平均より **13 ポイント（前年 4.7 ポイント）** 上回っている。また、糖尿病による死亡は、東部圏域では、主要な死因の第 **11 位（前年 9 位）** となり、男性の死亡数が **11 人（前年 23 人）** で半減した。また、糖尿病との関連が大きい腎不全の男性の死亡数も **19 人（前年 32 人）** であり半減したが要因は不明である。

<平成 29 年主要な死因の死亡数・死亡率>

死 因 名 ()は全国の死亡順位	東 部 圏 域					鳥 取 県				
	死亡数(人)			死亡率 (人口 10 万対)	死亡 割合 (%)	死亡数(人)			死亡率 (人口 10 万対)	死亡 割合 (%)
	総数	男性	女性			総数	男性	女性		
死亡者総数	2,884	1,427	1,457	1,257.6	100	7,536	3,695	3,841	1,333.3	100
悪性新生物 (1)	824	469	355	359.3	28.6	2,003	1,151	852	354.4	26.6
心疾患 (2)	389	170	219	169.6	13.5	1,053	463	590	186.3	14.0
老衰 (4)	346	101	245	150.9	12.0	824	237	587	145.8	10.9
脳血管疾患 (3)	260	115	145	113.4	9.0	713	322	391	126.1	9.5
肺炎 (5)	144	89	55	62.8	5.0	452	247	205	80.0	6.0
不慮の事故 (6)	87	50	37	37.9	3.0	245	139	106	43.3	3.3
大動脈瘤及び解離	46	15	31	20.1	1.6	120	44	76	21.2	1.6
自殺 (9)	38	31	7	16.6	1.3	91	69	22	16.1	1.2
腎不全 (8)	37	19	18	16.1	1.3	119	58	61	21.1	1.6
慢性閉塞性肺疾患	36	33	3	15.7	1.2	105	90	15	18.6	1.4
糖尿病	27	11	16	11.8	0.9	80	37	43	14.2	1.1
肝疾患	25	19	6	10.9	0.9	65	40	25	11.5	0.9

出典：鳥取県人口動態統計

<平成 29 年主要な死因の男女別死亡数・年齢調整死亡率（人口 10 万対）>

死 因 名	東 部 圏 域				鳥 取 県			
	死 亡 数		年齢調整死亡率		死 亡 数		年齢調整死亡率	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
死亡者総数	1,427	1,457	524.7	249.6	3,695	3,841	513.7	252.4
悪性新生物	469	355	186.5	102.3	1,151	852	173.5	92.4
心疾患	170	219	57.0	30.2	463	590	62.2	29.9
老衰	101	245	20.1	19.1	237	587	17.9	17.0
脳血管疾患	115	145	40.0	17.7	322	391	43.3	22.3
肺炎	89	55	24.0	5.3	247	205	25.2	8.0
不慮の事故	50	37	25.4	10.6	139	106	25.0	10.6
大動脈瘤及び解離	15	31	5.1	5.3	44	76	6.5	4.6
自殺	31	7	25.6	4.9	69	22	24.0	7.5
腎不全	19	18	4.9	2.2	58	61	5.8	2.7
慢性閉塞性肺疾患	33	3	10.2	0.3	90	15	9.2	0.8
糖尿病	11	16	4.1	2.9	37	43	5.7	2.7
肝疾患	19	6	11.2	1.0	40	25	8.4	3.0

出典：鳥取県人口動態統計

※ 年齢調整死亡率：死亡数を単に人口で除した通常の死亡率（粗死亡率）は、高齢者の割合が高い集団では高くなり、そうでない集団では低くなる傾向があるので、年齢構成の異なる集団の間で正確に死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整したうえで再計算した死亡率（人口 10 万対）

＜死因順位別死亡数・割合（％）（10 歳階級別）の推移＞

平成 29 年の死因順位別死亡数をみると、40 歳代以上の全年代の死因の第 1 位は悪性新生物である。

死因の第 2 位は、総数は心疾患であるが、40 から 50 歳代は自殺、80 歳代以上は老衰である。

死因の第 3 位は、総数は老衰であるが、40 から 50 歳代及び 80 歳代以上は心疾患、60 から 70 歳代は脳血管疾患である。

1 総数

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	総 数
H18 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	不慮の事故	総 数
	実数（人）	706	400	304	192	102	2,367
	割合（％）	29.8	16.9	12.8	8.1	4.3	100
H22 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	老 衰	総 数
	実数（人）	789	396	325	218	184	2,685
	割合（％）	29.4	14.7	12.1	8.1	6.9	100
H28 年	死因	悪性新生物	心疾患	老 衰	脳血管疾患	肺 炎	総 数
	実数（人）	814	412	300	265	183	2,840
	割合（％）	28.7	14.5	10.6	9.3	6.4	100
H29 年	死因	悪性新生物	心疾患	老 衰	脳血管疾患	肺 炎	総 数
	実数（人）	824	389	346	260	144	2,884
	割合（％）	28.6	13.5	12.0	9.0	5.0	100

2 40～49 歳

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	総 数
H18 年	死因	自 殺	悪性新生物	心疾患	不慮の事故	脳血管疾患	総 数
	実数（人）	13	10	8	4	3	44
	割合（％）	29.5	22.7	18.2	9.1	6.8	100
H22 年	死因	自 殺	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故	総 数
	実数（人）	16	13	3	2	2	44
	割合（％）	36.4	29.5	6.8	4.5	4.5	100
H28 年	死因	悪性新生物	自 殺	心疾患	不慮の事故	※全て 1 人以下	総 数
	実数（人）	10	9	7	3	－	37
	割合（％）	27.0	24.3	18.9	8.1	－	100
H29 年	死因	悪性新生物	自 殺	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	総 数
	実数（人）	19	7	4	4	3	44
	割合（％）	43.2	15.9	9.1	9.1	6.8	100

3 50～59 歳

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	総 数
H18 年	死因	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	自 殺	不慮の事故	総 数
	実数（人）	69	17	14	13	9	145
	割合（％）	47.6	11.7	9.7	9	6.2	100
H22 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自 殺	肺 炎 肝疾患	総 数
	実数（人）	65	16	14	11	6	145
	割合（％）	44.8	11	9.7	7.6	4.1	100
H28 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故	肝疾患	総 数
	実数（人）	42	12	8	6	3	92
	割合（％）	45.7	13.0	8.7	6.5	3.3	100
H29 年	死因	悪性新生物	自殺	心疾患	不慮の事故	脳血管疾患	総 数
	実数（人）	48	8	7	6	5	98
	割合（％）	49.0	8.2	7.1	6.1	5.1	100

4 60～69 歳

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	
H18 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	糖尿病	総 数
	実数 (人)	123	27	20	11	9	248
	割合 (%)	49.6	10.9	8.1	4.4	3.6	100
H22 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	不慮の事故	総 数
	実数 (人)	145	29	20	11	9	272
	割合 (%)	53.3	10.7	7.4	4	3.3	100
H28 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	糖尿病	総 数
	実数 (人)	143	42	19	9	8	283
	割合 (%)	50.5	14.8	6.7	3.2	2.8	100
H29 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	糖尿病	総 数
	実数 (人)	172	29	22	11	5	307
	割合 (%)	56.0	9.4	7.2	3.6	1.6	100

5 70～79 歳

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	
H18 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	糖尿病	総 数
	実数 (人)	123	27	20	11	9	248
	割合 (%)	49.6	10.9	8.1	4.4	3.6	100
H22 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肝疾患	不慮の事故	総 数
	実数 (人)	145	29	20	11	9	272
	割合 (%)	53.3	10.7	7.4	4	3.3	100
H28 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	腎不全 不慮の事故	総 数
	実数 (人)	202	43	36	20	10	450
	割合 (%)	44.9	9.6	8.0	4.4	2.2	100
H29 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺 炎	不慮の事故	総 数
	実数 (人)	196	59	31	17	17	470
	割合 (%)	41.7	12.6	6.6	3.6	3.6	100

6 80 歳以上

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	
H18 年	死因	心疾患	悪性新生物	脳血管疾患	肺 炎	老 衰	総 数
	実数 (人)	279	269	196	130	72	1,290
	割合 (%)	21.6	20.9	15.2	10.1	5.6	100
H22 年	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老 衰	肺 炎	総 数
	実数 (人)	337	291	236	176	165	1,641
	割合 (%)	20.5	17.7	14.4	10.7	10.1	100
H28 年	死因	悪性新生物	心疾患	老 衰	脳血管疾患	肺炎	総 数
	実数 (人)	409	306	291	199	152	1,946
	割合 (%)	21.0	15.7	15.0	10.2	7.8	100
H29 年	死因	悪性新生物	老 衰	心疾患	脳血管疾患	肺炎	総 数
	実数 (人)	381	339	287	198	121	1,923
	割合 (%)	19.8	17.6	14.9	10.3	6.3	100

出典：鳥取県人口動態統計

<平成 29 年東部圏域のがん部位別死亡数上位 5 つ>

(人)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
合計	気管支、肺 188	胃 101	大腸 101	膵臓 69	肝臓 55
男性	気管支、肺 141	胃 67	胃 46	肝臓 55	膵臓 33
女性	大腸 55	気管支、肺 47	膵臓 36	胃 34	乳 34

出典：鳥取県人口動態統計

3 予防・保健に関する状況

(1) 特定健診等の受診率(市町村国保)の推移

平成 29 年度の東部圏域の特定健診の受診率は 35.6%であり、鳥取県の目標値の 70%を大きく下回っている。ただし、平成 20 から 22 年度まで県全体の受診率を下回っていたが、平成 29 年度は、県平均を 3.4 ポイント上回っている。

平成 29 年度の東部圏域の特定保健指導の実施率は 42.9%であり、鳥取県の目標値の 45%をやや下回るものの、県平均を 10.7 ポイント上回っている。

＜特定健診・特定保健指導（市町村国保）の受診者数、受診率＞

区 分			H20 年度	H21 年度	H22 年度	H27 年度	H29 年度
特定健診 (県目標:70%以上)	東部圏域	対象者数(人)	39,294	39,368	39,037	36,899	35,204
		受診者数(人)	8,997	9,837	10,115	12,836	12,538
		受診率(%)	22.9	25	25.9	34.8	35.6
	鳥取県	対象者数(人)	103,221	103,250	102,072	96,216	91,228
		受診者数(人)	24,137	28,129	27,943	30,479	29,377
		受診率(%)	23.4	27.2	27.4	31.7	32.2
特定保健指導 (県目標:45%以上)	東部圏域	対象者数(人)	1,231	1,351	1,279	1,345	1,358
		終了者数(人)	128	201	232	480	582
		実施率(%)	10.4	14.9	18.1	35.7	42.9
	鳥取県	対象者数(人)	3,454	3,606	3,488	3,334	3,202
		終了者数(人)	520	498	591	915	1,050
		実施率(%)	15.1	13.8	16.9	27.4	32.2

出典：鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課調べ

(2) がん検診等の受診率(鳥取県健康対策協議会報告分)の推移

平成 28 年度の東部圏域のがん検診の受診率は、県の目標値は下回っているが、子宮がん検診以外の受診率は、県平均より高い。

平成 28 年度の精密検査の受診率は概ね横ばい状態で、東部圏域と県全体の差は僅少である。乳がんのみ受診率の目標値 95%を超えて最も高いが、大腸がんは 78.8%で最も低く、近年同様の傾向が続いている。

＜がん検診・精密検査受診率＞

項 目	区 分		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
がん検診 受診率 (県目標: 50%以上)	胃がん	東部圏域	24.9	24.6	24.4	24.7	26.3	26.9	28.5	29.4	28.9
		鳥取県	22.7	22.7	23	23.4	24.6	24.8	25.8	27.0	26.8
	肺がん	東部圏域	29.9	29.3	28.6	28.9	30.2	30.5	33.5	34.3	34.0
		鳥取県	24.5	24.6	24.2	25.5	26.4	26.4	27.9	28.9	28.9
	大腸がん	東部圏域	28.3	27.9	27.8	29.2	30.9	31.2	32.8	34.1	33.3
		鳥取県	25.7	26	26.2	27.4	28.5	29.2	30.2	31.7	30.6
	子宮がん	東部圏域	16.6	18.6	19.8	20.3	21.5	21.1	22.6	23.8	23.9
		鳥取県	17.4	19.4	20.4	20.8	21.6	21.9	23.1	24.1	24.2
	乳がん	東部圏域	12.9	15.7	15.2	15.4	15.5	15.4	16.3	17.9	17.2
		鳥取県	12.3	16.2	14.9	15.4	15.1	15.8	16	17.5	16.7
がん検診 精密検診 受診率 (県目標: 95%以上)	胃がん	東部圏域	79.7	82.1	82.7	77.5	85.6	84.5	82.9	85.7	88.2
		鳥取県	83	81.6	83.3	82.0	83.5	81.6	83.4	84.7	86.5
	肺がん	東部圏域	90	91.3	88.9	89.3	92.3	91.1	91.6	91.0	89.8
		鳥取県	88.1	89	88.2	89.5	89.5	87.9	87.8	89.7	90.1
	大腸がん	東部圏域	75.1	77.2	77.1	78.3	79.8	77.9	77.4	77.9	78.8
		鳥取県	73.1	76.2	75.4	77.5	76.8	76.1	76.7	77.1	77.1
	子宮がん	東部圏域	83.3	88.8	65.8	85.5	70.6	87.9	70.9	88.8	86.8
		鳥取県	90.2	89.5	65.5	80.5	69.2	80.9	81.1	86.8	83.3
	乳がん	東部圏域	90.7	90.2	91.1	92.0	91.7	90.7	92.7	95.0	96.3
		鳥取県	92.6	92.4	92.3	93.6	92.2	91.6	92.1	95.3	94.2

出典：鳥取県・鳥取県健康対策協議会 「鳥取県がん検診実績報告書」

※東部圏域の各市町では、がん検診の対象者は 40 歳以上（子宮頸がんは 20 歳以上）としている。

4 受療の動向

受療の動向については、鳥取県の現状を参照してください。

5 医療機関の役割分担と連携

(1) 医療機関の役割と機能分担

1) 東部圏域の医療機関の状況

<医療機関等の数> (平成 31 年 3 月現在)

病院	診療所	歯科診療所	助産所	施術所	薬局
14 力所	194 力所	112 力所	6 力所	137 力所	96 力所

出典：鳥取市保健所調べ

<平成 29 年度病床機能（精神科病床を除く。12 病院が自主選択した機能）> (床)

施設名称	全体		高度急性期		急性期		回復期		慢性期	
	H29 年	H35 年	H29 年	H35 年	H29 年	H35 年	H29 年	H35 年	H29 年	H35 年
鳥取県立中央病院	417	417	46	130	371	287	0	0	0	0
鳥取市立病院	340	340	5	5	287	287	48	48	0	0
鳥取赤十字病院	400	400	64	64	336	298	0	38	0	0
鳥取生協病院	260	260	0	0	106	106	134	134	20	20
鳥取医療センター	304	304	0	0	0	0	50	50	254	254
岩美病院	110	110	0	0	60	60	0	0	50	50
智頭病院	99	99	0	0	52	52	0	0	47	47
鳥取産院	78	78	0	0	20	20	0	0	58	58
尾崎病院	180	180	0	0	29	0	31	60	120	120
ウェルフェア北園渡辺病院	240	240	0	0	0	0	60	60	180	180
渡辺病院	50	50	0	0	0	0	0	0	50	50
鹿野温泉病院	141	141	0	0	0	0	0	0	141	50
合 計	2,619	2,619	115	199	1,261	1,110	323	390	920	829

出典：平成 29 年度病床機能報告（7 月 1 日現在、及び平成 34 年 7 月 1 日現在を想定）

<平成 30 年度病床機能（精神科病床を除く。12 病院が自主選択した機能）> (床)

施設名称	全体		高度急性期		急性期		回復期		慢性期	
	H30 年	H35 年	H30 年	H35 年	H30 年	H35 年	H30 年	H35 年	H30 年	H35 年
鳥取県立中央病院	417	504	50	130	367	374	0	0	0	0
鳥取市立病院	340	340	5	5	335	287	0	48	0	0
鳥取赤十字病院	350	350	64	64	286	286	0	0	0	0
鳥取生協病院	260	260	0	0	106	106	134	134	20	20
鳥取医療センター	304	304	0	0	0	0	50	50	254	254
岩美病院	110	110	0	0	60	60	0	0	50	50
智頭病院	99	99	0	0	52	52	0	0	47	47
鳥取産院	78	78	0	0	20	20	0	0	58	58
尾崎病院	180	180	0	0	22	22	38	38	120	120
ウェルフェア北園渡辺病院	240	180	0	0	0	0	60	60	180	120
渡辺病院	50	24	0	0	0	0	0	0	50	24
鹿野温泉病院	96	96	0	0	0	0	50	50	46	46
合 計	2,524	2,525	119	199	1,248	1,207	332	380	825	739

出典：鳥取市保健所調べ

（公立・公的病院は平成 30 年 11 月現在及び平成 35 年 7 月 1 日現在を想定

その他病院は平成 30 年 7 月 1 日現在及び平成 35 年 7 月 1 日現在を想定）

＜12 病院のその他の機能＞（平成 29 年 7 月 1 日現在）

施設名称	救急告示 病院	精神科 救急輪番 病院	地域医療 支援病院	回復期リハビ テーション病床 を有する病院	地域包括 ケア病棟	在宅療養 支援病院	在宅療養 後方支援 病院
鳥取県立中央病院	○		○				
鳥取市立病院	○		○		○		○
鳥取赤十字病院	○		○				
鳥取生協病院	○			○	○		
鳥取医療センター		○		○			
岩美病院	○				○		
智頭病院	○				○		
鳥取産院							
尾崎病院				○			
ウェルフェア北園渡辺病院				○			
渡辺病院		○					
鹿野温泉病院						○	
合計機能数	6 カ所	2 カ所	3 カ所	4 カ所	4 カ所	1 か所	1 か所
（ベッド数：床）	—	—	—	231	144	—	—

出典：平成 29 年度病床機能報告他

- ・病床機能報告は、平成 26 年度に開始となり、毎年 7 月 1 日現在と 6 年後の 7 月 1 日現在について、医療機関が自主選択した機能の集計結果
- ・鳥取県立中央病院は、平成 30 年 12 月のグランドオープン後に高度医療と一般病床を併せて 504 床へ増床
- ・鳥取赤十字病院は、平成 30 年 5 月のグランドオープン後に 350 床へ縮小
- ・地域医療支援病院は、県立中央病院、鳥取赤十字病院、鳥取市立病院の 3 病院であり、東部圏域の中核的な病院としての機能を有する
- ・郡部の中山間地域等では、公的医療機関が急性期から慢性期まで果たす役割が大きい
- ・在宅療養支援病院は、鹿野温泉病院の 1 病院のみであり、24 時間往診可能な体制を整備し、看取りの機能も有する
- ・在宅療養後方支援病院は、鳥取市立病院の 1 病院のみであり、かかりつけ医と連携し、24 時間体制で急変時の対応を行う機能を有する
- ・診療所は 194 カ所あり、初期医療、在宅医療を担っており、そのうち在宅支援診療所は 28 カ所

課題・対策

課 題	対 策
○医療機能の機能分担と連携が不十分 ○住民への周知が不十分	○東部圏域内の医療機能の機能分担や連携について推進する。 ○今後の医療機能の機能分担や連携について住民への普及、啓発 ○とっとり医療情報ネット、病床機能報告等を活用した医療機関の機能の周知

(2) 医療機関の業務連携

現 状

1) 医師の配置状況

＜平成 28 年度年代別医師配置状況＞

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上	計	平均年齢
東部圏域	45 人	62 人	113 人	111 人	128 人	62 人	521 人	53.2 歳
鳥取県	129 人	325 人	373 人	355 人	320 人	189 人	1,691 人	51.4 歳

出典：政府統計総合窓口 e-Stat、医療政策課調べ

- ・東部圏域は、県全体と比較して平均年齢が高い

<平成 28 年度医師数（人口 10 万対）>

区 分	H24 年		H26 年		H28 年	
	医師数	人口 10 万対	医師数	人口 10 万対	医師数	人口 10 万対
東部圏域	502 人	212.1 人	520 人	223.2 人	524 人	226.8 人
鳥取県	1,627 人	279.6 人	1,662 人	289.5 人	1,699 人	298.1 人
全 国	288,850 人	226.5 人	296,845 人	233.6 人	304,759 人	240.1 人

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（各年 12 月 31 日現在）

- ・東部圏域は、県全体、全国と比較して人口 10 万対医師数が少ない

<平成 30 年度医師の充足数>（ ）は平成 29 年度

	現員数	必要数	不足数	充足率
東部圏域	341.0 人 (322.7)	427.8 人 (425.8)	86.8 人 (103.1)	79.7% (75.8)
鳥取県	1,134.4 人 (1,137.3)	1,363.1 人 (1,364.2)	228.7 人 (226.9)	83.2% (83.4)

出典：「医師数に関する調査」鳥取県地域医療支援センター調べ

※東部圏域は 14 病院の、鳥取県は 44 病院の医師の充足数

※現員数は、平成 30 年 1 月 1 日現在の医師数

※必要数は、現行の診療体制を基本とし、各病院が平成 30 年 4 月 1 日に必要としている医師数

- ・東部圏域は、県全体と比較して充足率が低い